

こどもにすすめたい本 2026



『かけています』
市原 淳／作
世界文化社

山梨県内の図書館員が、昨年1年間に出版された図書の中から
「こどもにすすめたい本」110冊を選びました。

山 梨 県 立 図 書 館
山 梨 県 公 共 図 書 館 協 会

小学生(低学年)向け



『グランド・フィーリング・ホテル』
リディア・ブランコヴィッチ/作 tupera tupera/訳
東京書籍 ¥1,980 (税込)

グランド・フィーリング・ホテルを訪れる客は、いろいろな「気持ち」。カナシミさまが来たら静かに、オイカリさまが来たら暴られる部屋に…。支配人は客に合わせたおもてなしをする。モヤモヤする気持ちを整理したい時に読みたい絵本。



『こだいのなぞとふしぎのずかん』
五十嵐美和子/著 東京国立博物館/監修
白泉社 ¥1,100 (税込)

ピラミッドやモアイ、縄文土器に埴輪…。古代の人々が残した遺跡などをカラーイラストで紹介。古代の謎や不思議について、子どもたちが興味を持つきっかけになる絵本。用語の解説もわかりやすい。



『空をとびたいルーカスと世界でいちばんたかい本の山』
ロシオ・ボニージャ/作 中井はるの/訳
アチエロ ¥2,310 (税込)

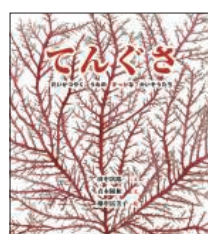
空を飛びたくて無茶ばかりする少年ルーカスは、ママから「とぶ方法は、いくらでもあるわ」と本をもらう。たちまち読書に夢になると、読んだ本は積みあがって山のように…。「想像力」という翼を得たルーカスの、輝くような笑顔が胸を打つ。



『たねはいのちのおわりとはじまり』

鈴木純/著
ブロンズ新社 ¥1,540 (税込)

たんぼぼやみわりなど、身近な植物の種が芽を出し育っていく様子や、種がはじけたり飛んだりして運ばれていく様子を分析する。花が咲き終わり、また種が生まれる様子は命のつながりを感じさせてくれる。植物の観察が楽しくなる一冊。



『てんぐさ』

田中次郎、青木優和/文 畑中富美子/絵
仮説社 ¥1,980 (税込)

ところてんや寒天の原料である赤い海藻「てんぐさ」。てんぐさの生態や赤い色の秘密、ところてんの作り方や寒天の活用法などを、写実的な絵でわかりやすく紹介する。海藻のグループ分け表などもあり、読み応えがある。



『どろぼうジャンボリ』

阿部結/作
ほるぶ出版 ¥1,540 (税込)

泥棒のジャンボリは、手紙を書き損じた紙「てみのたね」を盗み宝箱に隠していた。ある日、自分には手紙が来ないことをひがんだ新町長の命令で手紙が禁止される。がっかりしたジャンボリは町を出るが、宝箱の鍵を閉め忘れてしまい…。



『ラッキー』

キャサリン・アップルゲイト/作 チャールズ・サントソ/絵 尾高薫/訳
偕成社 ¥1,980 (税込)

母親とはぐれた赤ちゃんラッコのラッキーは人間に拾われ、水族館で育つ。一旦海に戻ったものの、けがをして水族館に帰ってきたラッキー。今度は自身が世話役となり、赤ちゃんラッコたちを支え育てる。外国の実話をもとにした、温かい物語。



『わたしはBIG!』

ワシュティ・ハリソン/作 ジェーン・スー/訳
ポプラ社 ¥2,035 (税込)

体が「おおきい」ことを褒められて成長した女の子。しかし次第に他の子どもたちと比較され、心ない言葉に深く傷つき、自分を見失ってしまうが…。周囲の言葉にとらわれず、ありのままの自分で良いと伝える絵本。

その他のおすすめの本

『あおのいえ』

いとうみく/作 丸山ゆき/絵 童心社 ¥1,540 (税込)

『うめぼしつかったよ』

内野美恵/監修 高橋忠照/写真撮影 ひさかたチャイルド ¥1,430 (税込)

『お月さまいつもありがとう』

メリッサ・スチュワート/文 ジェシカ・ラン/絵 まつむらゆりこ/訳 吉村崇/解説・監修 福音館書店 ¥1,815 (税込)

『きみはなんのつる?』

大野八生/作・絵 福音館書店 ¥1,650 (税込)

『給食当番のいちにち』

大塚菜生/文 イシヤマアズサ/絵 少年写真新聞社 ¥1,870 (税込)

『くだものはなんのはな?』

宮崎祥子/構成・文 網野文絵/写真 岩崎書店 ¥1,540 (税込)

『どうぶつたちのおひっこし』

平山暉彦/さく 福音館書店 ¥1,320 (税込)

『マイヤーさんと大きくなりすぎた犬』

リアン・ムーア、レオーネ・アデルソン/作 小宮由/訳 kei saito/絵 さ・え・ら書房 ¥1,650 (税込)

『まこちゃんとコトバロボ』

村上しいこ/作 たんじあきこ/絵 佼成出版社 ¥1,540 (税込)

『やくそく』

那須正幹/さく 武田美穂/え ポプラ社 ¥1,980 (税込)

『山に登る』

星野秀樹/写真・文 アリス館 ¥1,760 (税込)

『わたしのちいさいきものえん』

大島加奈子/さく 福音館書店 ¥1,320 (税込)

小学生(中学年)向け



『おいしいお米をつくりたい!』

谷本雄治／著
汐文社 ¥1,980 (税込)

小学生のゆうちゃんは、自由研究で「米づくりがしたい!」と農家に弟子入りし、完全無農薬栽培に挑戦する。悪天候や雑草、害虫などの試練を、地域の人の支えのなかで乗り越えていく。米作りと少年の成長を記したノンフィクション。



『牛革のランドセルができるまで』

上吉川祐一／著
文一総合出版 ¥2,420 (税込)

ランドセルには牛革が使われている。この本では牛がどのように育てられるのか、また牛革がどんな工程を経てランドセルになるのかを、豊富な写真を使って詳しく解説している。命の大切さやものづくりについて考えるきっかけに。



『クッキー投票!』

マーガレット・マクナマラ、ダニエル・バートン/文 G.ブライアン・カラス/絵 椎名かおる/訳
あすなろ書房 ¥1,760 (税込)

自分たちの州をより良くするため、ティフィン先生のクラスは「州の花」のように「州のクッキー」を決めるアイデアを法案として議会へ提出することに。しかし、クッキーの味をめぐる意見が分かれ…。話し合いや投票の大切さがわかる本。



『ゴロゴロヤマネコ不動産』

藤重ヒカル／作 樋口モエ／画
福音館書店 ¥1,870 (税込)

傘職人のもとに「ヤマネコ不動産」から案内が届く。店を訪ねると店主の猫山さんは帽子を目深にかぶり、ゴロゴロとうなっていて何だか怪しげ。おすすめされた物件は格安で、さっそく借りて店を開くと、不思議な客がやってきて…。



『シリアの秘密の図書館』

ワファー・タルノフスカ/作 ヴァリ・ミンツィ/絵 原田勝/訳
くもん出版 ¥1,760 (税込)

ヌールは物語が好きな女の子。しかし内戦の火が迫り、地下室で避難生活が始まる。いとこのアミールとともに、攻撃の際をついて町に散乱する本を集めて作った秘密の図書館は、人々の希望となり…。実話をもとにした「本」をめぐる物語。



『スマイルカットでみんな笑顔に!』

別司芳子／著
佼成出版社 ¥1,760 (税込)

美容師の赤松隆滋さんは、発達障害などで散髪が苦手な子どもたちのために「スマイルカット」の活動を始める。絵カードやタイマーを使って手順をわかりやすくし、子どもの気持ちに寄り添い髪を切る赤松さん。その思いと活動を紹介する。



『ねぎのねぎしくん』

戸森しるこ／作 伊野孝行／絵
講談社 ¥1,650 (税込)

おつかいの帰り道、少年は街灯に寄りかかり物思いにふける1本のねぎと出会う。話しかけると、ねぎは「ねぎし」と名乗り、食べられることがねぎの幸せだと語るが…。少年とねぎしくんとの変てこでユーモアあふれる物語。



『まぼろしの動物ニホンオオカミ』

たけたにちほみ/文 川田伸一郎/監修 坂口友佳子/イラスト
Gakken ¥1,650 (税込)

小学4年生の小森日菜子さんは、博物館で見た1体の標本がニホンオオカミではないかと疑問を持つ。専門家の助言や資料を手がかりに調査し、ついに世界で6体目となるはく製と判定された。「好き」を原動力に探究する過程を追う。

その他のおすすめの本

『おばあのサーターアンダギー』

上條さなえ/作 こやまもえ/絵 さ・え・ら書房 ¥1,760 (税込)

『じいちゃんの赤いスニーカー』

本田有明/作 しらこ/絵 佼成出版社 ¥1,650 (税込)

『しおりのカチューシャ』

草野たき/著 エヴァーソン朋子/画 福音館書店 ¥1,430 (税込)

『1945年8月6日あさ8時15分、わたしは』

原爆を体験した子どもたち、あまみきこ/他言葉 いわさきちひろ/絵 童心社 ¥1,870 (税込)

『先生!おかわり禁止ってへんじゃない?』

麻生かつこ/文 イシヤマアズサ/絵 金の星社 ¥1,540 (税込)

『地理学者シリアへ行く』

小口高/文 山本美希/絵 アリス館 ¥1,760 (税込)

『ベランダでわたしをつくったよ』

あおきあさみ/さく 福音館書店 ¥1,760 (税込)

『ほるんだ、恐竜化石!』

平田貴章/写真・文 小林快次/監修 小学館 ¥1,760 (税込)

『まだまだここから』

宇佐美牧子/作 酒井以/絵 ポプラ社 ¥1,540 (税込)

『みんなをつなぐアイヌの糸』

横塚眞己人/写真と文 ほるぷ出版 ¥2,035 (税込)

『やさしいカタチ』

大西暢夫/著 彩流社 ¥2,420 (税込)

『わたしは書体デザイナー』

高田裕美/著 Gakken ¥1,760 (税込)

小学生(高学年)向け



『ある星の汽車』

森洋子／著
福音館書店 ¥1,980 (税込)

男の子とたくさんの動物たちを乗せ、広い大地を走る汽車。動物たちのおしゃべりでにぎやかな車内だったが、ドードーやブルーバックなど絶滅した動物が次々と下車していく。未来へと向かう汽車の行く末に読み手の思いをいざなう絵本。



『おれたちのラストイヤー』

マット・グッドフェロウ／著 ジョー・トッド=スタントン／画 小林玲子／訳
評論社 ¥1,760 (税込)

イギリスの寂れた町に暮らすネイトは、家族や友達への思いを日々詩に託し、書き散らしていた。ある日授業でその詩を朗読すると、先生は閃いた言葉をメモするようにとノートをくれた。ネイトが詩でつづった小学校最後の1年間の記録。



『絵で見る和子さんの地方病(日本住血吸虫症)』

昭和町風土伝承館杉浦醫院／作・編集 横井まい子／絵
昭和町教育委員会 ¥1,500 (税込)

今から90年度ほど前、和子の村には水田が広がり、子どもは川で泳いだり魚を捕まえたりしていた。一方で、水田や川に潜む寄生虫による地方病が人々を苦しめていた。地方病撲滅までの歴史や、治療に尽力した杉浦醫院について学べる一冊。



『子ブタたちはどう生きたのか』

太田匡彦／著
岩崎書店 ¥1,650 (税込)

荏崎市にある養豚場「ぶうふうう農園」。ここは、動物が本来の姿で過ごせるよう配慮する「アニマルウェルフェア」を重視し、完全放牧養豚を掲げて実践している。代表の中嶋さんが愛情を注いで育てた子ブタたちの7か月を追う。



『千年先のあなたへ』

佐藤まどか／作 佐藤真紀子／絵
BL出版 ¥1,760 (税込)

小学生の杏はお姉ちゃんの花梨が大好き。杏は、夢をかなえて宮大工になった姉の仕事を知りたいと思い、姉の勤務先で企画された小中学生向け見学ツアーに参加した。そこで、千年先に続く宮大工の技に触れて…。



『図書館探偵団』

野口武悟／監修 柴田こずえ／編集・文
岩崎書店 ¥3,960 (税込)

学校図書館や公共図書館の役割、図書館の種類や歴史、本の探し方、バリアフリー図書など、図書館にかかわるさまざまな情報を、豊富な写真とともに解説。甲州市立勝沼図書館の活動が、特色ある事例として紹介されている。



『ホテル・バルザール』

ケイト・ディカミロ／作 ジュリア・サルダ／画 横山和江／訳
偕成社 ¥1,650 (税込)

戦争で家を追われ、マルタは母とホテル・バルザールへやってきた。ホテルで働く母から「小さなネズミみたいに静かにしていなさい」と言われたが、マルタは老婦人に誘われ、7つの物語を聞くために老婦人の部屋へ通いはじめる。



『わたし、わかんない』

岩瀬成子／著 酒井駒子／装画
講談社 ¥1,540 (税込)

どんな質問にもすぐ「わかんない」と言う中と同級生は笑うが、幼なじみのセンは、自分の気持ちに正直な中のことをうらやましいと言う。ある日、中はセンから怪しい家を見張ろうと誘われるが…。思いを言葉にする難しさを伝える物語。

その他のおすすめの本

『あたたかな手』

濱野京子／作 偕成社 ¥1,650 (税込)

『イタチと野ネズミのはなし』

山下雅洋／文 しもかわらゆみ／絵 アリス館 ¥1,650 (税込)

『こども気象庁』

気象庁／監修 新星出版社 ¥1,980 (税込)

『純喫茶クライ』

吉田桃子／作 岩崎書店 ¥1,650 (税込)

『白い虹を投げる』

吉野万理子／作 黒須高嶺／絵 Gakken ¥1,760 (税込)

『動物のことばがわかる本』

ドクター・ニック・クラプトン／作 エイドリアン・パーマン／イラスト いでさとみ／訳 ゆまに書房 ¥3,520 (税込)

『読書感想文が終わらない!』

額賀澤／作 satsuki／絵 ポプラ社 ¥1,760 (税込)

『図書だよりとひみつのノート』

赤羽じゅんこ／作 はらぐちあつこ／絵 さ・え・ら書房 ¥1,760 (税込)

『はじめまして赤い星』

エドゥアール・アルタリーバ、ギリエン・アングラーダ・エスケデ／他著 わたなべしゅんいち／監訳 いとうのぶこ／訳 化学同人 ¥2,640 (税込)

『ぼくへのレファレンス』

岩崎まさえ／作 黒須高嶺／画 国土社 ¥1,650 (税込)

『みんなみんなとってもすてき』

パティスト・ポーリュウ／文 チン・レン／絵 ひがきゆみ／訳 ひさかたチャイルド ¥2,178 (税込)

『もしも明日、ぼくの足がなくなったら』

舟崎泉美／著 Gakken ¥1,430 (税込)

中学生・高校生向け



『AIに書けない文章を書く』

前田安正／著
筑摩書房 ¥946 (税込)

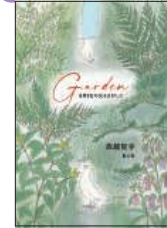
AIに書けない文章とは、書いた人の感情や経験から生まれる、その人独自のもの。新聞社の校閲を長年務めた著者が、技術の発達した現代において人間自ら文章を紡ぐ意味を問う。わかりやすく伝わりやすい文章を書く技術も身に付く一冊。



『思いがけず、朝子ちゃん』

高村有／作 せきやよい／絵
童心社 ¥1,650 (税込)

朝子は人間関係が原因で会社を辞め、祖母の花屋を手伝うことになった。ある朝、店先で中学生の美月に水をかけてしまったのをきっかけに二人は話をするようになり…。朝子との出会いが、悩める5人の小中学生に希望を与えていく短編集。



『Garden』

森越智子／作 大野八生／絵
童心社 ¥1,980 (税込)

ぼくには子どもごころ、二つの名前があった。本当の名前「ひでかず」と、父親のいとこの前でだけ呼ばれる「しゅういち」だ。名前の秘密を追いかけるうち、父が語ることのなかった長崎の被爆体験と、ある真実が明らかになっていく。



『広告の探検にでかけよう！』

エリカ・ファイビー／文 イアン・ターナー／絵 三井雄一／日本語版監修 おおつかのりこ／訳
玉川大学出版部 ¥4,180 (税込)

広告には、見る人の目を商品に向けさせる工夫が施されている。繰り返しやおとり作戦などに惑わされず、自分の意志で欲しいものを選ぶには？ 広告の歴史や用語集もあり、これまで何気なく見ていた広告を見直すヒントが得られる。



『この世は生きる価値がある』

長谷川まりる／作
ポプラ社 ¥1,760 (税込)

ある「魂」が、死んだ中学生の天山の体に入り込む。はじめのうち「魂」は身体を通して体験する感情や感覚を楽しむが、次第に天山の抱えていた事情を知り、天山として生きることの不自由さを感じはじめる。



『正しく疑う』

池上彰／監修
Gakken ¥1,650 (税込)

パソコンやスマホが身近にある今、使い方を間違えると犯罪の被害者になるだけでなく、加害者になってしまうことも。メディアを「正しく疑う」力が大切だ。情報を受け取り発信する方法や生成AIとの付き合い方などを伝える。



『ツバメの親子はどこにいる』

樫崎茜／作 水谷有里／装画・挿絵
くもん出版 ¥1,650 (税込)

白杖を持つ母をからかわれ同級生とけんかした音晴に、兄の明照はその事を母に言うなど口止めする一。視覚障害のある両親と、そのもとに生まれた兄弟の人生を、4人それぞれの視点から描いた家族の物語。



『どうやって美術品を守る?』

フアビエヌ・マイヤー、ジビュレ・ヴルフ／作 マルティナ・レイカム／絵 田中おかり／監訳 中村智子／訳
創元社 ¥4,950 (税込)

何百年も前の作品を今も鑑賞できるのは、専門家ははじめ、さまざまな人々が美術品を愛し、守っているから。肖像画を修復する物語を軸に、保存修復士という職業、またその技術をカラーイラストと写真で紹介する。

その他のおすすめの本

『学校に行かなかった僕が、あのころの自分に今なら言えること』

石井しこう／著 大和書房 ¥1,650 (税込)

『消えたモナ・リザ』

ニコラス・デイ／作 千葉茂樹／訳 小学館 ¥1,870 (税込)

『聞こえない羽音』

舟崎泉美／作 尾崎智美／絵 小学館 ¥1,430 (税込)

『人類の物語 世界はちがう人どうしてできている』

ユヴァル・ノア・ハラリ／著 西田美緒子／訳 リカル・ザプラナ・ルイス／絵 河出書房新社 ¥1,760 (税込)

『図解でわかる 14歳からの自分を助ける心理学』

社会応援ネットワーク／著 小関俊祐／監修 太田出版 ¥1,760 (税込)

『チャリを盗んで、夜明け』

黒川裕子／著 講談社 ¥1,760 (税込)

『中三・ラブソディ』

花里真希／著 講談社 ¥1,650 (税込)



『なんで人は青を作ったの?』

谷口陽子、高橋香里／著 クレメンス・メツラー／画
新泉社 ¥2,420 (税込)

中学1年生の蒼太郎と律は、地域の理科実験教室の森井老人から、人間と関わり深い「青色」の研究に誘われる。歴史や美術オタクの大人に振り回されながらも二人は研究に没頭していく。著者の高橋香里さんは甲府市出身。



『ぶたのしっぽ』

海緒裕／作 嶽まいこ／絵
講談社 ¥1,540 (税込)

野球部の豪太郎には、誰にも言えない趣味がある。編みぐるみ作りだ。職場体験で知り合った不登校の篠田から、自作したモデルロケットを学校に展示してほしいと頼まれると、豪太郎は自分も編みぐるみを展示したくなり…。



『ぼくとコテツの最後の3カ月』

槻木こえだ／著 江本宏平／監修 くまおり純／イラスト
Gakken ¥1,430 (税込)

颯太そうたが生まれた時から一緒にいる犬のコテツ。年をとって病気になる、ついに別れの日がやってくる。犬の老化のサインや介護方法、ペットロスとの向き合い方などを紹介したコラムがあり、物語の理解が深まる。



『真昼にも星が光ると知ったのは』

梨屋アリエ／作 みつきさなぎ／装画
ポプラ社 ¥1,760 (税込)

電車で白杖を持つ青年が、譲られた席でスマホを見ていた事を不審に思う夏鈴。彼の事を調べるなかで、思いがけず自分が発達障害である事を知る。さらに「障害があったら対等の友だちにはなれない」という親友の言葉に傷付き…。



『虫と仕事がしたい!』

丸山宗利、柳澤静磨／編著 前野ウルド浩太郎、小松貴／他著
河出書房新社 ¥1,694 (税込)

地球上には多様な虫がいて、虫に関わる仕事も人々もさまざま。昆虫館の職員や昆虫動画を公開する YouTuber、虫が苦手な研究員など、15人の仕事の内容や仕事に対する考え方を紹介する。



『もしも君の町がガザだったら』

高橋真樹／著
ポプラ社 ¥1,980 (税込)

封鎖されたガザ地区で、爆撃や飢え、病気などに苦しむ人々。その現状と、パレスチナをめぐる歴史をわかりやすく解説した一冊。もし、自分がガザに住んでいたなら…と具体的に考え、想像する事が世界を変える第一歩になる。



『ものすごい研究図鑑』

Gakken／編
Gakken ¥5,500 (税込)

「余った白菜でコンクリートを作る」「情報を駆使して世界の安全保障に挑む」「宇宙人の存在を科学的に検証する」など、独自の道を歩む12人の研究者と、その研究内容を紹介する。進路を考える際にも参考になる。



『わたしのbe』

佐藤いつ子／著
KADOKAWA ¥1,760 (税込)

自分の見た目に自信が持てず、メイクに挑戦する文香。同じ書道部の佑京が真摯に書に取り組み姿勢に触発されて「美しい字」を目指し書道と向き合う。そして「美しさ」とは何かを考え…。他人の言葉に揺れる高校生の心情を丁寧に描く。

『TRUE Colors』

神戸遥真、蒼沼洋人／他著 鎌谷悠希／装画 講談社 ¥1,760 (税込)

『なんで人間にはしっぽがないの?』

東島沙弥佳／著 久米火詩／画 新泉社 ¥2,420 (税込)

『逃げ続けたら世界一周していました』

白石あづさ／著 岩波書店 ¥1,034 (税込)

『ペンツベルクの夜』

キルステン・ホイエ／作 木本栄／訳 静山社 ¥1,980 (税込)

『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木俊貴／著 小学館 ¥1,870 (税込)

『僕の仕事はごみ清掃員。』

滝沢秀一／著 河出書房新社 ¥1,694 (税込)

『ルッキズムってなんだろう?』

西倉実季／著 関和之／イラスト 平凡社 ¥1,760 (税込)

4月23日は「子ども読書の日」



こどもにすすめたい本 2026

令和8年3月31日

編集 山梨県立図書館 サービス課

山梨県公共図書館協会「こどもにすすめたい本」編集委員会

発行 山梨県立図書館 山梨県公共図書館協会

〒400-0024 山梨県甲府市北口2-8-1

TEL 055-255-1040 FAX 055-255-1042

URL <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

Eメール kodomo@lib.pref.yamanashi.jp



山梨県立図書館 HP

*当館ホームページ上からもこの冊子を見ることができます。

*本書掲載の記事、イラスト、写真等の無断転載を禁じます。

*本冊子は、保育所及び教育機関（幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、高校、特別支援学校）におけるプリントアウト、コピー、無料配布ができます。

改変・切除などはご遠慮ください。